安藤歴史　秋第十二回 １・１５

Copyright : Takumin

2008年1月15日

14:49

試験について。

論述で大きな問題一問。結構難しいらしい。あらかじめ講義内容を確認しておくように。

日吉一帯の古墳について（画像）

先週は古墳時代後期の話。６世紀。今日は７世紀の話。倭国が古代国家として制度を整えてゆく最終段階の話をする。７世紀になると小さい円分が増加、横穴式石室。何度でも埋葬施設がたくさん作られた。日吉のにはそういう施設が数百存在していた。埋葬される人物が増えているという状況であった。６と７の違いはそんなにない。大切なことは大きな古墳とか前方後円墳は存在せずに、小さい円ふんや横穴式石室が増加していたということ。

律令国家の誕生

◎終末期（７世紀）の古墳

・前方後円墳の築造が行われなくなった。畿内王権の墓は６世紀末に方墳（円墳）に変化。７世紀後半には八角墳が天皇墓に採用される。後続などの墓には小型の円墳が作られる。

・他地域でも前方後円墳あ作られなくなる。

　関東では畿内より大きな方墳・円墳が作られる。

・群集墳・横穴墓群も次第に減少。

　　八世紀初頭には、ほぼ全国的に作られなくなる。

　　→前方後円墳築造の意味の消滅。

　　大規模な墳墓を築くことや、墓によって身分秩序を表示することの意味が薄れていった。

◎寺院の建立

・法興寺（飛鳥寺）の建立（６世紀末）

　蘇我氏の本拠地の明日か地域。天皇の宮殿も飛鳥地域に集中。

　仏像に製作には、馬具等の工人も関わった。鞍作止利（止利仏師）

・７世紀中葉までに畿内を中心に３０カ所以上の寺院が建立される。

　７世紀末までに北関東～九州に数百の寺院。

→前方後円墳に代わる大型の建造物となる。氏の権威を示すものとして機能。併せて畿内との思想的・政治的一体性を表示。

◎中国的都城の成立

・７世紀は天皇の宮殿がアスカを中心に頻繁に移動。酒船石遺跡の石造物をはじめとする石造物群

　石神遺跡・水落遺跡の迎賓館・漏刻。

　飛鳥池遺跡の工房跡（７世紀後半）

　　ガラス・金銀・銅・銀製品の工房が集中。富本銭（最古の銅銭）の鋳造

→飛鳥地域は政治・経済・外交・思想の中心地。

・藤原京の成立（６９４年）

　初の条坊制を敷いた中国的都城。

◎律令国家の誕生

・氏姓制度の廃止と官人の身分（位階）制度の整備。

　　冠位十二階（６０３年）。以後段階的に拡充。

・大化の改新

　部の廃止（公地公民）、班田収授法（均田制）、税制（租庸調の人頭税）、国評制（行政単位）

・戸籍による個別人身把握

　庚午年籍（６７０）、庚寅年籍（６９０）

・律令による法体系の整備

　飛鳥浄御原令（６８９）、大宝律令（７０１）

＊個別人身把握と人頭税賦課による人民支配の進行。成文法による制度的身分秩序・中央集権の確立。

→古墳。墓制による身分秩序表示の意味が薄らぐ。

◎大陸の動向

しらん。

倭国は６００，６０７年以後、遣隋使を派遣。

*倭国が隋と対等の立場とする国書を送る。

６１８：唐建国

朝鮮は新羅が朝鮮半島を統一した。６７６年。